

# 令和3年度小平市立鈴木小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

- 全体の正答率は、全国平均よりも5.3ポイント高い。観点別に見ると「思考・判断・表現」の正答率は約8ポイント上回っているものの「知識・技能」の正答率は、やや低かった。特に言葉の特徴や使い方に関する事項では、全国平均より1.6ポイント下回った。

#### 課題

- 漢字の問題では、無回答率が約20%であった。また、自分の考えを表現する問題では、無回答が22%であった。
- 言葉や漢字の知識の習得や、自分の考えを目的に応じて適切に表現する力を育成する必要がある。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

- 話し合いや学び合いの場を多く設定し、言葉の違いによる感じ方の違いに着目する学習を通して、語彙を増やし、言語感覚を豊かにしていく。また例を示しながら、どのように書くと相手に伝わりやすい文章になるのかを考えさせながら取り組む。
- 漢字練習と漢字テストの間違い直しと復習を習慣化させながら、漢字で表現するよさや日常的に使うよさに気付かせる。

### 【算数】

#### 状況の分析

- 全体の正答率は全国平均よりも5.8ポイント高く、特に「A数と計算」「B図形」に関する領域は、全国よりも約10ポイント高い結果であり、基本的な学力の定着が見られた。
- 「C測定」と「Dデータの活用」の領域は、全国平均よりも上回っているものの東京都平均よりもやや下回った。

#### 課題

- 記述式の問題では、図形の面積で8.6%、グラフの割合で5.7%、小数の倍で5.7%の児童が無回答であった。
- 基本的な知識技能の定着は見られるが筋道立てて説明する等、思考力表現力を育成する必要がある。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

- 考えをもつ時間を十分確保し、考えの伝え合いを通して共有し解決に取り組む活動を多く取り入れることで、多様な解決方法を見出し、一人一人の思考力・表現力を高めていく。
- 「C測定」は、身近なものの測定活動を多く取り入れ、量の感覚を豊かにするとともに、測定したのから学習課題を設定し課題解決を図っていく。また、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現する力を高めていく。
- 「Dデータの活用」は、タブレットPCを活用しながら目的に応じてデータ収集や分析する等、日常生活に生かす活用型の問題解決学習を行い、統計的な問題解決のよさに気付かせていく。

## 【質問紙】

## 状況の分析

## 課題

- ・「朝食」「就寝や起床の時刻」に関する質問では、都・全国平均よりも上回り、家庭での規則正しい生活習慣が身に付いているといえる。
- ・「学校が楽しい」「人の役に立ちたい」ということに関して肯定的な回答が全国・都平均と比べ、多く見られた。
- ・「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする」ことに肯定的な回答が91.8%であった。

- ・「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことが」できていないと回答したのが13.5%と多い。(全国比▲7.6%) この結果から各教科の「思考・判断・表現」の課題につながっていると考えられる。
- ・「失敗を恐れずに挑戦する」ことは10%が否定的な児童が多く自己肯定感が低い。

## 学校で取り組む具体的な改善策

- ・基本的な生活習慣が身に付いている状況を生かし、さらに充実させ定着できるようにする。
- ・話し合い活動の有用性は感じているものの、自分の思いを表現することができていない傾向にあるため、各教科において交流活動を多く取り入れ、自分の考えを他者に伝える活動を計画的に取り入れた授業改善を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。
- ・特別活動(1)では、学校や学級をよりよくするための議題を設定し「人のために役立つ」ための学級会を行い、計画→実践→振り返りの学習の流れから話し合うことのよさや成功体験を多く積ませたり指導者の具体的な称賛を伝えたりすることで児童の自己肯定感を高めていく。